法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-08

能界展望　2018年（平成30年）

高橋, 悠介 / TAKAHASHI, Yūsuke

(出版者 / Publisher)
The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University / 法政大学能楽研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
NOGAKU KENKYU : Journal of the Institute of Nogaku Studies / 能楽研究
(巻 / Volume)
45
(開始ページ / Start Page)
229
(終了ページ / End Page)
237
(発行年 / Year)
2021-03-25

能界展望 二〇一八年（平成三十年）

高橋悠介

はじめに

平成29年にGINZA SIXの中という新しい装いで開館した観世能楽堂も一周年を迎え、能楽ファンの間でも、この新しい能楽堂が徐々に馴染んできたように思われる。5月には、一周年記念で屋上のガーデンで薪能も行われ、4日は観世宗家が、5日は坂口貴信がシテで〈土蜘蛛〉を披露したほか、それぞれ野村太一郎・三宅右矩らによる狂言〈柿山伏〉も上演された。また、7月31日には、観世能楽堂で、音阿弥生誕620年記念・観世能楽堂開場一周年記念〈音阿弥シンポジウム〉が開催された。第一部では観世流・宝生流・金剛流の三宗家が揃って江戸城での謡初式を再現、第二部では松岡心平と二木謙一らにより、武家儀礼と能の密接な関係をテーマとしたシンポジウムが行われた。

また、国立能楽堂が開場35周年を迎え、後述する様々な記念公演が開催された。7月31日には、開場35周年記念シンポジウム「観世三代と室町将軍～能と権力～」があり、観阿弥・世阿弥・音阿弥と室町将軍家の関係に焦点が当てられた。第一部は、松岡心平・小川剛生による基調講演「観世三代と室町将軍」、第二部は音阿弥が演じた記録が残る〈善知鳥〉を観世宗家が舞囃子形式で上演、第三部は観世宗家と桜井英治・小川剛生・松岡心平による座談会という内容であった。なお、平成30年1月7日には兵庫県西宮市に西宮能楽堂が開館した。阪神電鉄鳴尾駅から徒歩5分の位置である。

国立能楽堂の展示室では、開場35周年記念特別展「土佐山内家の能楽」（8月30日～11月4日）が開催された。土佐藩主・山内家伝来の能・狂言面、能装束、楽器を、高知県立高知城歴史博物館の所蔵品を中心に紹介した内容で、9月26日には同博物館長の渡部淳と法政大学能楽研究所の宮本圭造両名による特別講座「土佐山内家の能楽」も開催された。この年は他にも能・狂言面の展示企画が幾つもあったことが特筆される。まず、MIHO MUSEUMで開催された「猿楽と面―大和・近江および白山の周辺から―」展（3月10日～6月3日）は、副題にある通り、大和・近江および白山の参拝口の祭礼で使われた面などを広く集めた展示であった。この中で、展示替えも含めて、のべ350点（うち重要文化財80点）

の面が展示されたが、ここまで多くの面を観ることができる機会は稀であり、交通の面では遠い会場ながら、足を運ぶ甲斐のある充実した展示であった。また、東京国立博物館でも、特集展示「日本の仮面〈能狂言面の神と鬼〉」（3月20日～4月22日）があり、関連企画として3月30日には同館平成館大講堂で、「日本文化との出会い～トーハク能」と題して、半能〈嵐山・白頭〉（シテ本田光洋）も上演された。そして、國學院大學博物館の特別展「狂言―山本東次郎家の面」（5月26日～7月8日）では、大蔵流狂言方・山本東次郎家に伝わる狂言面32点や道具などが展示され、5月26日には山本東次郎による講演会も開催された。さらに、三井記念美術館では、「金剛宗家の能面と能装束」展（6月30日～9月2日）が開催され、金剛宗家の「雪の小面」と三井記念美術館の「花の小面」が並んだのも話題となった。渋谷区立松濤美術館の「林原美術館所蔵 大名家の能装束と能面」展（10月6日～11月25日）でも、岡山県の林原美術館が所蔵する岡山藩主・池田家伝来の能面・能装束が展示された。

最後に、これまでにない能楽の享受空間として、3月に日本橋に舞台を備えた「水戯庵」が開店したことにふれておく。これは、アートアクアリウム・アーティストの木村英智が手掛けた、能楽や日本舞踊などをお酒・食事と共に楽しめる、劇場型レストラン&ラウンジである。こうした空間は、人によって評価が分かれるかもしれないが、能楽を楽しむ人々の裾野を広げ、多様な楽しみ方の形態ができること自体は、良いことのように思われる。

以下、平成30年の能界のさまざまな動きを紹介する。四世梅若実襲名披露能、八十一世金春憲和金春流宗家継承披露能、葛野流宗家継承披露・広忠の会など、節目の記念公演もあった一方で、一噌仙幸や藤田六郎兵衛といった、数多くの舞台を支えてきた囃子方の名手を失った衝撃も大きい年であった。なお、紹介にあたり、敬称は省略させていただいた。また、重要な公演を紹介しそびれているかもしれないが、ご容赦願いたい。

さまざまな催し

【記念能】

◎野村萬米寿記念公演

1月8日。国立能楽堂。〈三番叟・式一番之伝〉野村萬、狂言〈蝸牛・替之型〉野村又三郎、新作狂言〈信長占い・一管〉野村万蔵、狂言〈若菜・立合小舞・新作下リ端〉野村萬、野村万蔵、ほか。〈三番叟・式一番之伝〉は横道萬里雄原案、七世野村万蔵（当時）演出で、平成11年に初演したもの。〈信長占い〉は、磯田道史作・九世野村万蔵演出で、平成29年7月に初演した新作狂言で、笛入りの新演出で上演。

◎四世梅若実襲名披露能

3月25日。観世能楽堂。〈翁・談山式 日吉之式〉梅若実・山本則重・観世喜正、舞囃子〈梅と橘〉梅若実、山本東次郎、半能〈絵馬〉観世銕之丞ほか。

◎金剛能楽堂開館15周年記念公演
　4月7日。金剛能楽堂。〈翁・弓矢立合〉観世清和、金春安明、金剛永謹、〈正尊〉宝生和英、金春憲和、金剛龍謹、狂言〈末広かり〉茂山千作ほか。
◎八十一世金春憲和金春流宗家継承披露能
　5月4日。宝生能楽堂。〈翁・十二月往来　父尉延命冠者〉金春憲和、半能〈高砂〉金春穂高、〈佐渡〉金春安明ほか。
◎亀井俊雄50回忌追善・葛野流宗家継承披露 広忠の会
　8月25日。観世能楽堂。〈翁・弓矢立会〉梅若実、観世銕之丞、大槻文藏、舞囃子〈高砂・舞序破急之伝〉金春憲和、一調〈八島〉辰巳満次郎、飯嶋六之佐、一調〈東北〉櫻間右陣、内田輝幸、舞囃子〈安宅・延年之舞〉宝生和英、一調〈芭蕉〉金剛永謹、亀井広忠、一調〈鐘之段〉梅若実、亀井俊一、舞囃子〈融〉友枝昭世、一調〈江口〉梅若万三郎、亀井忠雄、〈道成寺〉観世清和、ほか。
◎国立能楽堂開場35周年記念公演
9月5日、〈翁〉金剛永謹、〈松竹風流〉大藏彌太郎、〈井筒・物著〉観世清和、〈乱・置壺〉片山九郎右衛門。
9月8日、〈安宅〉武田孝史、狂言〈栗焼〉茂山七五三、〈砧〉野村四郎。
9月15日、〈嵐山・白頭働キ入リ〉金春安明〈間狂言〈猿聟〉野村万之丞〉、〈定家〉浅見真州。
9月21日、仕舞〈求塚〉高橋章、狂言〈見物左衛門・深草祭〉野村萬。
9月28日、狂言〈福の神〉善竹忠一郎、狂言〈射狸〉山本東次郎、狂言〈木実争〉野村萬斎。

【新しい企画公演】

◎狂言このあたり乃会
　野村万作門下の、岡聡史・中村修一・内藤連・飯田豪の4人により発足。第一回公演は7月7日。銕仙会能楽研修所。狂言〈末広かり〉内藤連、飯田豪、深田博治、狂言〈隠狸〉中村修一・岡聡史。最後に4人の座談会。
◎第一回土乃武能
　12月1日。国立能楽堂。〈邯鄲〉高橋忍、狂言〈蝸牛〉野村萬斎、ほか。高橋忍による企画公演。
◎鵜澤速雄十三回忌追善能・鵜澤洋太郎の会
　12月23日。国立能楽堂。〈道成寺〉観世銕之丞、森常好、山本泰太郎、山本則孝、一噌隆之、鵜澤洋太郎、亀井広忠、小寺真佐人、ほか、仕舞〈芭蕉〉観世清和、語〈二千石〉山本東次郎、一調〈笠之段〉　梅若実・亀井忠雄、一調一管〈江口〉野村四郎・一噌庸二・大倉源次郎。鵜澤洋太郎主催の初めての会。
◎宝生流企画公演「夜能～夜楽の調べ」
　平成30年1月から宝生能楽堂で始まった企画。毎回、邦楽奏者を招き、能楽師との対談を行うなどの新しい取り組みをしている。詳細は省略するが、2月公演では雅楽、4月は箏曲、5月は尺八、6月は長唄、11月は箏曲、といった邦楽の各種音曲と、能や仕舞を共に楽しむ企画。

【復曲・新作など】

◎「能と土岐善麿「夢殿」を観る」

1月31日。喜多能楽堂。第一部が、三田誠広・岩城賢太郎・リチャード・エマートによるおはなし。第二部が、素謡〈復活〉と半能〈夢殿〉。半能〈夢殿〉は、シテ大村定。

◎金剛永謹の会第32回東京公演・新作能〈面影〉―ポール・クローデル「女と影」による

2月4日。国立能楽堂。ポール・クローデル生誕150年記念。クローデルが舞踊詩劇として作った「女と影」を元にした新作能。平成29年10月29日に金剛能楽堂で初演の後の東京公演。シテ金剛永謹。

◎粟谷菊生十三回忌追善・第101回粟谷能の会

3月4日。国立能楽堂。〈山姫〉粟谷能夫、狂言〈武悪〉野村万作、〈卒都婆小町〉粟谷明生。〈山姫〉は喜多流参考曲の復曲。

◎第19回一乃会特別公演・復曲能〈鈴木三郎重家〉

3月29日。国立能楽堂。シテ鈴木啓吾。

◎第19回吉次郎狂言会

5月27日。国立能楽堂。復曲狂言試演〈隠れ笠〉大藏教義、狂言〈富士松〉大藏彌右衛門、〈千切木〉大藏吉次郎。

◎第5回 復曲試演の会「実方」

6月10日。京都観世会館。講演「水鏡に映った実方の面影」西野春雄、〈実方〉片山九郎右衛門、〈野守・白頭〉浦田保浩。

◎新作能〈田道間守〉

8月22日。兵庫県・豊岡市民プラザ。8月29日。国立能楽堂。いずれも、田道間守・観世喜正、橘の精・林宗一郎、ほか。演出・四世梅若実、監修・十三世林喜右衛門。平成26年3月に初演してから初めての再演。

◎第41回能にしたしむ会・復曲能〈わたつみ〉

9月2日。京都観世会館。平成29年に福岡で復曲初演した後の再演。シテ片山伸吾。

◎現代能〈陰陽師安倍晴明〉～晴明 隠された謎～

9月6・7日。新宿文化センター大ホール。梅若実、野村萬斎、大空ゆうひ、桂南光ほか。平成13年に初演された同曲を、藤間勘十郎の脚本補綴、野村萬斎の演出により上演。

◎新作能〈沖宮〉東京公演

11月18日。国立能楽堂。天草四郎・金剛龍謹、竜神・金剛永謹、ほか。原作・石牟礼道子。舞台監修・金剛永謹、衣装監修・志村ふくみ、詞章監修・中村健史。

◎万作を観る会

11月21日・25日。作・高橋康也、演出・野村万作の〈法螺侍〉ほか。21日。小舞〈名取川〉飯田豪、小舞〈景清 後〉岡聡史、〈昆布売〉野村裕基、野村太一郎、新作〈法螺侍〉野村万作・野村萬斎・深田博治・月崎晴夫・石田幸雄・高野和憲。25日。小舞〈道明寺〉野村遼太、〈宗論〉中村修一・内藤連・竹山悠樹、新作〈法螺侍〉野村万作ほか(右に同)。いずれも国立能楽堂。

◎第10回記念東京満次郎の会

11月24・25日の二日間の公演。24日、〈安宅・延年之舞 貝

立〉辰巳満次郎、ほか。25日新作能〈オセロ〉辰巳満次郎、ほか。〈オセロ〉は、脚本・作章・泉紀子、演出・節付・辰巳満次郎。シェイクスピア戯曲を能に翻案。

【海外公演】

◎ルーマニア公演

6月14・15日。ルーマニア・シビウ市のチスナディオラ砦要塞教会。〈敦盛〉山本章弘、ほか。

◎アメリカ・ハリウッド公演

8月3日。アメリカ・ロサンゼルス、ノースハリウッド。〈羽衣〉〈土蜘蛛〉勝海登、ほか。

【その他の新しい試み】

◎三番叟ＦＯＲＭⅡ

1月2・3日。東京国際フォーラム。野村萬斎の総合演出のもと、野村萬斎の〈三番叟〉と映像のコラボレーション。映像演出・真鍋大度。リアルタイムＣＧ制作・橋本善久。主催・東京国際フォーラム。企画制作・東京国際フォーラム・ＮＨＫエンタープライズ。

◎大槻能楽堂自主公演・研究公演　原作〈養老〉

2月3日。齊藤信隆（前シテ）、多久島利之（後シテ）、齊藤信輔（ツレ）、福王知登（ワキ）、ほか。〈養老〉が本来は護法型の能であったという説に基づく演出での上演。護法型は、前半の主役が退場せずに後半まで残り、そこに後半の主役が登場する形態の能。能の前に、大谷節子・天野文雄によるトークセッション「〈護法型〉をめぐって」が、能の後にはこの両者に大槻文藏を交えトークセッション「原作〈養老〉を見て」が行われた。

◎能楽の水鏡―映像に映すイマジネーション―

2月12日。日経ホール。宝生和英による〈羽衣〉に、イメージ映像や文字情報を重ねる試み。能装束の展示や、いとうせいこう・宝生和英によるトークも行われた。

◎花花能

2月11～13日。観世能楽堂。漫画家・成田美名子の画業40周年を記念し、白泉社が主催して、漫画「花よりも花の如く」の主人公が作中で演じた能などを上演。2月11日、〈羽衣・和合之舞〉長山桂三、狂言〈福の神〉山本東次郎、半能〈石橋・師資十二段之式〉観世銕之丞、ほか。12日、観世銕之丞と成田美名子による対談の後、狂言〈昆布売〉山本泰太郎、〈葵上・梓之出　空之祈〉馬野正基、ほか。13日、舞囃子〈天鼓・盤渉〉観世銕之丞、狂言〈蝸牛〉野村萬斎、〈土蜘蛛〉谷本健吾、ほか。

◎青山実験工房

湯浅譲二や武満徹、現代作曲家による音楽、舞踏、演劇、美術、能楽を能舞台で共鳴させる試み。清水寛二が中心となり、平成30年では4月と12月に公演を行った。

第1回青山実験工房は、4月21日～22日。能楽師以外では、高橋アキ（ピアノ）、中村明一（尺八）、中村鶴城（琵琶）、佐藤

紀雄（ギター）、會田瑞樹（パーカッション）などと多彩な共演が試みられた。能の囃子方出演は亀井広忠、田邊恭資、松田弘之。詳細は省略するが、21日昼「能舞台に響く、現代音楽と舞」。21日夜、〈隅田川〉清水寛二、ほか。22日「サティ∞能」（エリック・サティのピアノ曲と舞踏・舞・朗読などの共演）。

第2回青山実験工房は12月6～8日。6日、「砂の女」（内藤明美作曲）、能〈井筒〉清水寛二、ほか。7日、「中有」（福島和夫作曲）清水寛二ほか、「水の曲」（武満徹作曲）舞・観世銕之丞、舞囃子〈砧〉野村四郎、「雪は降る」（湯浅譲二作曲、詩・三好達治）舞・清水寛二。8日午後、影能〈鵺〉舞・清水寛二、映像セノグラフィ・飯名尚人、ほか。8日夜、「LUCIFER」（森本恭正作曲）、〈芭蕉〉清水寛二、ほか。いずれも銕仙会能楽研修所。

◎3D能エクストリーム〈清経〉〈熊野〉〈船弁慶〉〈葵上〉

11月28日～12月2日。東京芸術劇場シアターイースト。専用の3D眼鏡を着用し、舞台後方の特殊スクリーンに映し出される3Dの立体映像と共に能を見る形態。演出・奥秀太郎、映像技術・福地健太郎、ワキ（録音）・大日方寛、囃子（録音）・熊本俊太郎・飯田清一・亀井広忠・林雄一郎、語り部（録音）・石川界人。企画制作・3D能製作委員会、協力・Panasonic・明治大学。

【その他】

平成30年7月、台風7号と梅雨前線などの影響で、特に西日本を集中豪雨が襲った。年末に能楽協会大阪支部の主催で行われたチャリティー公演での収益は、西日本豪雨の被災地へ贈られた。

◎第3回みおつくしチャリティー能

12月23日。大槻能楽堂。第一部、〈橋弁慶〉山中雅志、狂言〈因幡堂〉善竹隆司、〈杜若〉寺澤幸祐、ほか。第二部、能〈草子洗小町・替装束〉大西礼久、狂言〈蟹山伏〉善竹隆平、〈鵜飼〉高林呻二、ほか。

襲名・その他

◎シテ方観世流の梅若六郎玄祥が、2月に四世実を襲名した。

◎狂言方大蔵流の善竹忠一郎が、11月に彌五郎を襲名した。

◎笛方藤田流十一世宗家、藤田六郎兵衛の逝去に伴い、12月、二十六世観世宗家観世清和が藤田流宗家預りに就いた。

栄誉・受賞

◎第20回千田是也賞（毎日芸術賞の演劇部門寄託賞）　野村萬斎（狂言方和泉流）

平成29年7月の「子午線の祀り」（世田谷パブリックシアター）の演出・出演が受賞理由。

◎文化庁芸術選奨文部科学大臣賞　杉市和（笛方森田流）

平成29年10月の片山幽雪三回忌追善京都公演における〈檜垣〉（シテ片山九郎右衛門）における成果が受賞理由。

◎第54回大阪文化祭賞（第一部門）　ＴＴＲ能プロジェクト（小鼓方幸流・成田達志と大鼓方大倉流・山本哲也による能プロデュース・ユニット）
平成29年8月のＴＴＲ能プロジェクト15周年特別公演（定家）（シテ大槻文藏）の成果が受賞理由。
◎第39回松尾芸能賞　藤田六郎兵衛（笛方藤田流）
◎春の褒章　旭日小綬章　野村四郎（シテ方観世流）
◎秋の褒章　紫綬褒章　金剛永謹（シテ方金剛流）
◎秋の褒章　旭日双光章　豊嶋三千春（シテ方金剛流）
◎重要無形文化財（人間国宝）　柿原崇志（大鼓方高安流）
◎文化功労者　大槻文藏（シテ方観世流）
◎観世寿夫記念法政大学能楽賞　鵜澤久（シテ方観世流）・杉市和（笛方森田流）
◎催花賞　高林白牛口二（シテ方喜多流）
◎文化庁芸術祭賞優秀賞　野村萬斎（狂言方和泉流）・山本哲也（大鼓方大倉流）

日本能楽会・能楽協会関係

◎日本能楽会
【役員構成】
《会長》野村四郎
《副会長・常務理事》金剛永謹
《常務理事》観世清和・亀井保雄・豊嶋三千春・粟谷能夫・高安勝久・山本東次郎
《理事》梅若玄祥・浅見真州・金春安明・高橋忍・武田孝史・宝生欣哉・藤田六郎兵衛・観世新九郎・亀井実・山本哲也・小寺佐七・茂山千作・野村萬斎
《監事》小林与志郎・櫻間金記
【会員数】516名

◎能楽協会
【役員構成】（平成30年6月選任役員）
《理事長》観世銕之丞
《専務理事》本田光洋
《常務理事》武田宗和・香川靖嗣・國川純・観世喜正
《理事》一噌隆之・井上裕久・大倉源次郎・大藏彌太郎・金井雄資・桜井均・種田道一・辻井八郎・中村邦生・成田達志・野村又三郎・廣田幸稔・藤波重彦・宝生欣哉・水上優・山井綱雄・山本章弘
《監事》中村元彦・丸岡圭一・大和滋
《顧問》野村萬・観世清和・金剛永謹
【会員数】１１５４名

シテ	観世380	金春147	宝生125	金剛71	喜多47	小計770名	
ワキ	高安13	福王16	宝生23	小計52名			
笛	一噌11	森田41	藤田4	小計56名			
小鼓	幸28	幸清9	大倉17	観世5	小計59名		
大鼓	葛野10	高安11	大倉10	石井9	観世2	小計42名	
太鼓	観世17	金春18	小計35名				

狂言　大蔵77　和泉63　小計140名
支部別　東京553名　名古屋名93名　北陸79名　京都146名　大阪143名　神戸43名　九州77名　本部扱20名

物故者

●小寺一郎
シテ方観世流。1月29日、虚血性心筋梗塞のため逝去。享年90。昭和2年生まれ。

●石牟礼道子
作家。2月10日、逝去。享年90。新作能〈不知火〉、新作狂言〈なごりが原〉などを残す。

●笠井陸
シテ方喜多流。3月8日、胃がんのため逝去。享年76。昭和16年生まれ。喜多実に師事。重要無形文化財保持者。

●小川明宏
シテ方観世流。3月17日、逝去。享年78。昭和15年生まれ。武田四郎、武田太加志、武田志房に師事。

●権藤芳一
能楽評論家。3月30日、逝去。享年87。昭和33年から京都観世会館に事務局長として30年間勤務。著書に『能楽手帖』(能楽書林)、『戦後関西能楽誌』『平成関西能楽誌』(和泉書院)など。

●一噌仙幸
笛方一噌流。4月24日、肺疾患のため逝去。享年77。昭和15年生まれ。藤田大五郎に師事。重要無形文化財保持者(人間国宝)。観世寿夫記念法政大学能楽賞、紫綬褒章、恩賜賞・日本芸術院賞受賞。能楽協会、日本能楽会理事などを歴任。

●小林責
能楽研究家。5月22日、老衰のため逝去。享年89。昭和3年生まれ。著書・共著に『能楽大事典』(筑摩書房)、『狂言を楽しむ』(平凡社)、『狂言史研究』(わんや書店)など。田辺尚雄賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。

●前西芳雄
6月、逝去。享年96。大正11年生まれ。昭和12年から平成5年まで檜書店に勤務の後、金剛能楽堂財団に勤務。京都観世会監事、金剛会監事などを務め、京観世や金剛流の歴史にも造詣が深かった。催花賞受賞。

●藤田六郎兵衛重昭
笛方藤田流十一世家元。8月28日、肝臓がんのため逝去。享年64。昭和28年生まれ。昭和55年家元継承、57年六郎兵衛襲名。日本能楽会理事。観世寿夫記念法政大学能楽賞、文化庁芸術祭大賞、中日文化賞、松尾芸能賞優秀賞等受賞。

●井上菊次郎
狂言方和泉流。四世井上菊次郎。12月5日、逝去。享年77。昭和16年生まれ。父の三世井上菊次郎に師事。狂言共同社代表。日本能楽会理事。

●福井四郎兵衛

小鼓方幸清流。12月17日、心不全のため逝去。享年88。昭和5年生まれ。九世福井五郎及び十四世幸円次郎に師事。日本能楽会理事。